

たにくいちだより 2月

サロンでの気づき

サロンを訪問させて頂き、気づいたこと、聞いたことなど、お伝えしたいと思います。何かお役に立てれば嬉しいです。

1月も早いもので20日を過ぎました。連日寒い日が続いていますが、お体大丈夫でしょうか。

初詣は元旦に厳島神社に行つてきました。さすがに人が多く、廻廊はぎゅうぎゅう詰めでやつの思いで拝殿にたどり着きました。平舞台から大鳥居が浮かぶ瀬戸内の海はとても美しく爽やかでした。今年のNHKの大河ドラマは「平清盛」ですが、清盛のようにたくましく生き、良い年にして行きましょう。



■自分の使命感を持つ

新年のご挨拶でサロン様にお伺いした時に、今年の抱負は、何んですかと訊ねると、自分らしさを出していきたい。自分のしたい事を思いつきりしていきたいとか、言われます。

氾濫する情報や人の話に振り回されたあげく、何も良くならなかつた。

他力でなく、自分のことは自分でやるしかないと考えるようになったのだと思います。

言い換えれば、機械的でなく人間らしく生きて行こうと考えるようになったのだと思います。

ただ間違えてはいけないのは、自分らしく生きることと、わがままとは違うことだと思います。

自分らしく生きるためにには人と対話をすること、人に自分のことを伝えること、つまりコミュニケーションをとることが大切になってくるのだと思います。

■対話の大切さ

先日、サロンの新年会に参加させていただきました。

サロンスタッフ全員が集まって会話することの大切さを痛感しました。常日頃の対話が大切ですね。

会社でどんなに素晴らしい「制度」「しきみ」をつくったとしても、常日頃の対話がなくては、うまく機能ていきません。効率が求められる時代ですが、時間を共有し、対話することはとても大切なことだと思います。

谷口美容

Free0120-417-011

Tel082-238-2221

Fax082-238-2227

<http://www.taniguchi-b.com>

<https://www.facebook.com/yasumichi.taniguchi>

検索

■和顔施(わけんせ)

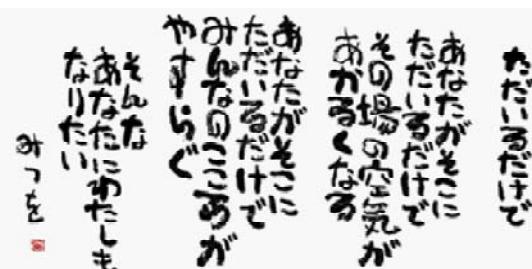
昨年末、NHKで瀬戸内寂聴さんの『東北の青空説法』という番組の中で寂聴さんが、被災しながらも浣刺(はつらつ)とした笑顔で地元FM局でDJをしている石巻の女子高生たちを見て送った言葉が「和顔施」です。



お金や物で人に施しができなくても、和やかな笑顔で人に接していれば、それだけで施しになるという仏教の教えです。

不幸は悲しい顔が好き。幸せは、笑顔が好き。人に対して笑顔で優しく接する。笑顔は、素晴らしい幸せのエネルギーと力を私たちに与え、与えることができること、これからも笑顔を大切にとおっしゃっていました。

サロン様でも笑顔で、ドアを開け、外に出て、深々と頭を下げ、見えなくなるまでお見送りされる姿を見ると幸せな気分になります。



■初心忘れべからず

商品売上が落ち込んでいたサロンさんが取り組んだ事は、基本の徹底でした。

一人一人のお客様の悩みに応じたシャンプーを選んで使ってあげた。

今日使った商品をお見せし、心からおすすめした。

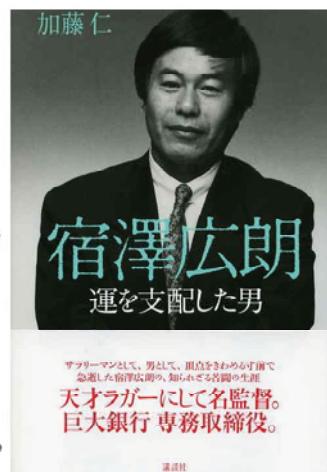
そして、アシスタント、スタイリストがそれぞれの役割の中でベストをつくし行動したことです。

知らず知らずの間にマンネリ化し、使命感、新鮮さ、爽やかさ、熱心さがなくなっていたのだと思います。

当社も新年にあたり、常に新鮮な気持ちで、使命感を持ち、笑顔で取り組んでいきたいと思います。本年も宜しくお願ひ申し上げます。

今月は、お正月休みに読んだ
加藤 仁著「宿澤広朗 運を支配した男」の一文
を紹介させていただきます。

宿澤広朗氏について簡単にご紹介させていただきます。昭和25年9月1日生まれ。早大ラグビーのスクラムハーフとして昭和46年、47年2年連続日本一。大学2年から日本代表で活躍。卒業後、住友銀行にはいる。平成元年日本代表監督となり、国際試合初戦でスコットランドをやぶる。3年ワールドカップで日本悲願の1勝を達成。6年早大ラグビー一部監督。18年住友銀行専務取締役。平成18年6月17日死去。55歳。東京出身。



仕事を取り組むその姿勢を知る上で、宿澤広朗の原点ともいべき本人のみごとな文章がある。大学卒業時に書いた「早稲田学報」(昭和48年4月号)に掲載された「楕円形の青春」と題する一文である。筋立てのいい叙述は、端正にして平明であり、若き宿澤の文才をも感じさせる

【楕円形のラグビーボールは、よく人生の縮図であると言われる。つまりラグビーボールが不規則なバウンドをすることによって、ゲームの勝敗を左右することが、予測もつかない人間の未来にたとえられるのである】



こう書き出され、つぎに前年(昭和47年)の日本選手権の対三菱自工京都戦における劇的な逆転トライについてふれる。その雪の日の試合については前章でもふれたが、終了寸前、センター佐藤秀幸の蹴ったパントが弾まないはずの雪のグランドで高く跳ね上がって、右ウイング堀口孝の胸におさまり、逆転トライとなった。それをマスコミが「勝利の女神が早稲田に」「好運のトライ」と報じたことで、その陰にかくれた努力や実力が過小評価されたのではないかと、宿澤は書く。

【およそラグビーにおいて(他のスポーツにもあてはまることがあるが)運だけで勝敗が決するものではない。もちろん大きな要因であるには違いはない。しかし、相手に勝つためには、たゆみない努力と、それによって生まれた実力と、それらを生かす恵まれた運、この三つがうまく相關した時に一つの大きな力となって相手に打ち勝つことができるのである。そしてそれがまた、自信とか、精神力とか、勝負強さなどといったものを生む源となるのである】

あの一瞬のために自分たちはどれほど春先から練習を積み重ねてきたことか。ボールをうまくバウンドさせるだけでなく、よいタイミングで走り、よいポジションに位置する。宿澤によると、それは一年間の練習があってこそ成し遂げられたという。これから企業人になるにあたって、宿澤はこうしたラグビ一体験を自身の人生観にまで煮詰めていた。

【結局、その努力が報いられて、勝利をつかむことができたのである。(中略)これはスポーツに限らず、人が生きてゆく上でのあらゆることに共通するのではないだろうか。人間には、平等に、いろんな形でチャンスが与えられている。それがどのような結果を生むかは、その人の不断の努力と、そなわった力によって大きく変わってしまうのであろう】

そして、宿澤広朗が生涯抱きしめることになった信念で文章を結ぶ。

【これから的人生において、大きなバウンドが何回か歩む道を左右するであろう。その時になって、どうころがるかは計りしえないものがあるけれども、少しでも良い方向にころがるように日々努力を怠らないようになればなるまい】宿澤の先輩で早大ラグビー部の監督でもあった日比野弘は、この文章を読んで触発され、以後「努力は運を支配する」という言葉を座右の銘にするようになる。

当社もお客様に喜んでいただくために努力を惜しまず積み重ねて行きたいと思います。

フェイスブックにアクセスお待ちしています。



<https://www.facebook.com/yasumichi.taniguchi>